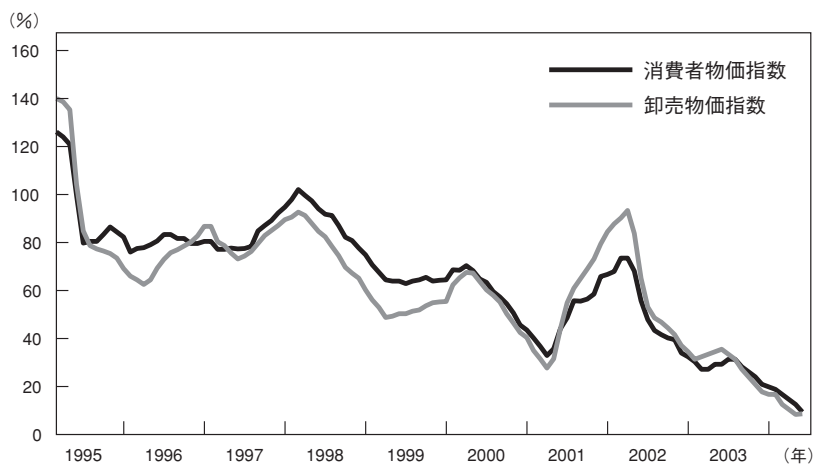


話 題

トルコのインフレが1桁に 間 寧

1970年代以来の2桁、さらに80年や94年には100%を超えたこともあるトルコのインフレ率は、2004年2月以降、卸売物価指数で初めて1桁になった。これはIMFからのスタンドバイ融資の条件として1999年末から続けられてきたインフレ抑制政策の成果である。当初は名目為替相場の将来切下げ率を事前に決めておく硬直的な管理変動相場制がとられたことなどから2001年2月に金融・通貨危機が発生した。しかしその後は完全な変動相場制へ移行、財政赤字削減と通貨供給管理はIMFの処方箋に忠実に続けられ、インフレは再び低下に向かった。インフレ収束を予想する政府は2004年2月に、2005年初めにトルコ・リラを100万分の1にするデノミ計画を発表した。ただし最近、トルコ・リラ過大評価(1994年比で4割増)と経常収支赤字拡大(2003年で68億ドル)という過去(1994年および2001年)の経済危機直前の状況が再現していることは注意を要する。完全変動相場制は管理変動相場制よりリスクは少ないとはいえ、大幅な切下げが輸入物価上昇によるインフレの再燃をもたらす可能性は否定できない。

物価指数変化率(前年同月比)



(出所) トルコ中央銀行ホームページ (www.tcmb.gov.tr) データより著者作成。